

美術センター 久我記念館

企画展のご案内
10月10日(水)～28日(日)
 (月曜休館・28日は正午まで・入館無料)

第13回 須恵美術クラブ展 ～ 秋色の美術館 ～

10月10日から開催される須恵美術クラブ展も回を重ね、今年で13回目となりました。

久我記念館を愛し、美術館の存在を支えとして積み重ねた『13年の時間』、その中で会員各々が質の高い作品展となるよう努力を重ね、お互いに影響し合い、刺激し合いながらでの今回の作品展となりました。

今年もみなさまのご高覧を心からお待ちしております。

なお、久しぶりに会期中 JAZZ CONCERT も予定しております。こちらに合わせてご来館いただきますよう秋色の美術館からの誘いです。

JAZZ コンサート **エアレジーン**

とき 10月20日(土)

会場 須恵町立久我記念館

開演 18:30

主催 須恵美術クラブ ☎ 932-4987



11月展示のご案内

第4回 須恵篆刻会 展

11月3日(土)～11月18日(日)
 (月曜休館・18日は正午まで・入館無料)



「麟鳳亀龍」 恵山刻



緑を守り育てる

実のなる木



アザレア幼稚園の森



森で遊ぶ園児たち

保存樹と保存樹林、今回は、幼稚園の木の実、実のなる木の樹林です。都会の子どもたちに「どんな木の実を知っていますか？」と尋ねたとしましょう。ドングリヤクリ、サクランボくらいは答えが返ってくるでしょうか。しかし、その多くはいわば耳学問で身につけたものでしょう。

ところが、わが須恵町の幼稚園には、木の実、実のなる木を体感できる場所が備わっています。須恵町自然教育林推進協議会では、平成5年から町内にある3つの幼稚園で、学園の森づくりを始め

ました。最初は、卒園記念の記念植樹が中心でしたが、その後「実のなる木の森」づくりへと発展しました。

このうちアザレア幼稚園(旧西幼稚園)には、現在ヤマモモ、カキ、サクランボ、グミ、ザクロ、ヒメリンゴ、カリン、キンカン、ミカン、ハツサク、クリ、モモ、ウメ、イチジクそれにビワなど実に15種類以上の「実のなる木」が植えられています。もともとアザレア幼稚園のある町の西地区は、山間部から離れていて、実のなる木はもとより緑も少ない地域です。

こうした場所に作られた学園の森で園児たちは、それぞれの花の季節には、森の中を回って色とりどりの花を観賞します。また、収穫の時期には、先生や保護者に手伝ってもらって、たわなに実った果実をもぎとり収穫の喜びに浸っています。

「百聞は一見にしかず」。しかも幼年時代の体験は生涯忘れません。自然を体感して育った子どもたちが、自然に喜びを見出し、自然と共生しながら生きていくことを期待したいと思います。(須恵町自然教育林推進協議会)



楽しむ

考古学

20

「60年ぶりの再会」

資料館に「博多にわか」の資料があります。昭和23年5月から6月頃に、福岡市西堅粕町(現、博多区堅粕)の博多二〇加(にわか)「どっこいしょ劇団」の高見良夫さんが書いたにわか劇の台本です。この台本の最初の頁にGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の検閲印を発見しました。これは、当時、GHQが行なっていたプレスコード(書物、新聞などに対する検閲)を示す資料です。



にわか面

早稲田大学演劇博物館に、今から約20年前にアメリカのミシガン大学から移管された、検閲台本の資料(ダイザイ・コレクシヨン)があります。これは、当時、福岡市内にあったCCDⅢ(第三地区民間検閲局)に保管されていた検閲用台本の副本が、CCDⅢの閉鎖後、ウィリアム・ダイザイ少尉の指示により、アメリカへ持ち運ばれ、ミシガン大学へ移送されたものです。この中に、高見良夫さんの台本を発見しました。題名が同じ資料であることから、正本と副本の関係になる可能性があります。まさに60年の時を経ての「再会」です。

※福岡歴史彩発見事業
 歴史民俗資料館特別展「博多の話芸 博多にわか」史料展
 10月4日(木)～12月24日(月)
 ※月・火・水曜日休館
 (祝日の場合は開館)

(啓)